【報道資料】　　平成 24 年 7 月 5 日

日本で初めて「IBC 国際栄誉賞」を受賞

～放送技術の発展に寄与する研究開発に対して～

- NHK放送技術研究所（以下、NHK技研）は、IBC [*1)]の最高の賞である「IBC国際栄誉賞（IBC International Honour for Excellence）」を日本で初めて受賞することになりました。

- 本賞は、放送・映画・メディア産業などの分野において、国際的に優れた貢献をした個人または組織に贈られるもので、研究機関が受賞するのは今回が初めてです。

- 今回の受賞は、NHK 技研が「放送技術の研究開発において先導的な役割を果たしてきたこと、研究開発の成果を放送現場で活用してきたこと、さらには放送システムの開発だけでなくコンテンツの制作手法や視聴者の利用形態などの両面からも放送技術の将来を示してきたこと」が高く評価されたものです。

- NHK 技研は 1930 年の開所以来、ラジオ、テレビ、衛星放送、ハイビジョン、薄型ディスプレイ、デジタル放送の研究開発など、放送技術のあらゆる分野で多くの成果を上げてきました。

- 今後は放送通信連携サービスの実現に向けたハイブリッドキャストや次世代の放送サービスとして期待されているスーパーハイビジョンなどの研究開発を推進していきます。

- 本賞の授賞式は、9 月 9 日（日）にオランダのアムステルダムで開催される IBC2012 の会場で行われます。

*1) IBC(International Broadcasting Convention)：欧州最大の放送機器展示会／カンファレンス

（参考）「ＩＢＣ国際栄誉賞」過去の受賞者と授賞理由

○2003 年： ジェームズ・キャメロン氏（映画監督）
映画の作品にＶＦＸや３Ｄなどの技術革新を取り入れ、感動的・刺激的・有益な作品を制作してきた継続的な熱意を評価。

○2007 年： スティーブ・ウォズニアック氏（Apple 社の創業者の一人）
アップル社の共同創業者として、常に明確なビジョンを持ってコンピュータ界を革新し続けた努力と、次世代の科学者や技術者の育成に深く関わったことを評価

○2008 年：ジェフリー・カッツェンバーグ氏
（ドリームワークス・アニメーションＳＫＧ最高経営責任者）
ウォルト・ディズニー・スタジオならびにドリームワークス・アニメーションＳＫＧにおいて、精力的にアニメーション映画の製作に関わり、多くの名作を生み出すと共に興行的にも成功させた業績を評価。

○2009 年： ニューヨーク　メトロポリタン歌劇場
1910 年以来、オペラの活動紹介にいち早く放送を利用。2006 年から HD 画質のデジタルシネマで、オペラを世界に配信する事業を開始したことを評価。

○2010 年： マノロ・ロメロ氏（オリンピック放送機構：ＯＢＳ会長）
1968 年のメキシコ五輪以来、すべての夏冬の五輪放送にかかわってきた業績を評価。

○2011 年： サー・デビット・アッテンボロー（プロデューサー）
世界的に記憶に残る自然科学に関する数々の番組を制作し、今もなお継続している業績を評価。